

ステロイド濃度と死因との関連性評価に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部法医学講座では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年11月12日～2027年3月31日

〔研究課題〕

剖検試料中ステロイド濃度と死因との関連性評価

〔研究目的〕

法医解剖の際に得られた試料を用いて、これらに含まれるステロイド類の定量分析を行います。死因別のステロイド類の測定値から、特異的に濃度の増減が見られるステロイドを同定し、死因の診断マーカーとしての可能性を探ります。

〔研究意義〕

生体内に含まれるステロイド濃度は様々な生理条件で変化するため病気の診断マーカーとして汎用されています。一方、ご遺体から得られる試料中ステロイド分析は殆ど行われておりません。疾患特的に増減するステロイドが同定出来れば、死因確定ツールの一助となることが期待できます。

〔対象・研究方法〕

2021年4月1日から2022年10月31日までに実施した法医解剖で得られた体液（血液、尿）及び臓器試料（脳、肝臓など）に含有されるステロイド類の濃度をLC-MSを用いて測定します。死因毎にステロイド濃度を集計・解析し、死因別にステロイド濃度に差異が見られるか検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部法医学講座

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報は加工して研究責任者が厳格に管理します。研究成果は個人の同定不可能な形で公表します。

対象となる可能性のある方々のご遺族で、ご家族の試料の研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：西尾 忠 職名 講師
所属： 帝京大学医学部法医学講座
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 Email: tnishio@med.teikyo-u.ac.jp